令和７年度　授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校

１　学校として目指す授業

「児童の主体的な学びを大切にした授業」「児童の実態に合わせた授業」

２　児童の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校６年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
３教科とも都と比較すると、国語では「知識・技能」が約14ポイント、「思考・判断・表現」が13ポイント下回っている。算数では、「知識・技能」が約19ポイント、「思考・判断・表現」が１８ポイント下回っている。理科では、「知識・技能」が約17ポイント、「思考・判断・表現」が15ポイント下回っている。領域別にみると、国語は「（１）言葉の特徴や使い方に関する事項」・「A話すこと・聞くこと」、算数は「B 図形」、理科は「生命」・「地球」を柱とする領域に課題がある。記述で答える問題に対する無回答率が高い。理由を考えて書くことができない。	土日に勉強を全くしない児童は、都と比較すると約10ポイント上回った。平日の学習時間が30分未満の児童は、都と比較すると18ポイント上回っている。日常的（平日の授業以外）に学習をしている児童については、都では８割以上、本校では６割程度である。将来の夢や目標をもっていない児童が３割超であり、日常的に目標に向かって努力する習慣が身に付いていない。

（２）清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（４～６年生）

学習の進め方に関する意識調査では、学校以外での平日の家庭学習の時間は「全くしていない」が約13%、「30分より少ない」が約26%、「30分以上１時間より少ない」が約32%、「自分で計画を立てて学習している」に「当てはまる」と答えた児童は26%であり、基本的に宿題等必須の学習には取り組むが、そうではない学習を自分の生活に取り入れて自らすすんで学習する児童は少ないと言える。また、「確実にできるようになるまで、くり返し練習している」に「当てはまる」と答えた児童は17%、「授業で学習した内容について、疑問に思ったことや興味をもったことを調べるようにしている」が28%であることから、学習内容を確実に理解し定着するまで自分に必要な課題に取り組んだり、疑問に思ったことを解決させるために誰かに質問したり調べたりする児童は少ないと考えられる。一方、「他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている」児童は21%、「文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる」児童は28%、「テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している」児童は23%であることから、本校の児童は、基本的に受け身の姿勢であり、宿題以外の家庭学習の仕方が分からずに、与えられた課題に取り組めば十分であり満足している状況なのではないかと考えられる。

（３）清瀬市「学力調査」の分析（小学５年生）

国語、算数共に、基礎学力の定着がされていない。

（国語）内容別に見ると、特に「言葉・情報・言語文化」の乖離が大きい。日々の漢字の反復学習が不足していることが伺える。読書習慣が身に付いていない児童が多く、学年相応の語彙力が備わっていないことが要因と考えられる。「話すこと・聞くこと」のポイントは平均より上回っていることからコミュニケーションの能力は高いことが伺える。

（算数）領域別に見ると、特に「データの活用」の乖離が大きい。複雑な問題文になると、必要な情報を読み取ることが出来ていない児童が多いので、縦軸と横軸の情報を数字と単位を分けて整理する方法を再度指導する。また、国語や社会、理科等のデータの読み取りとも関連付けながら指導を続ける。

（３）　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京都統一体力テストでは、全学年を通じて、昨年度同様立ち幅跳びと反復横跳びの結果が、全国平均と比べると下回っている。瞬発力・調整力・跳躍力に課題がある。本校では、これらの力を伸ばしていくために体力調査の説明のための集会を開いたり、体力調査の前に校庭に練習する場所を設けたりする。また、校庭に既存しているSケンやバトンスローなどの活用頻度を高めるために体育委員会で企画を催し、体を動かす機会を増やしていく。授業改善では、まず若手の授業向上のためOJTを行ったり、授業参観を行ったりする計画を担当と立てていく。市教研の体育の先生方などの情報など共有することで授業力の向上を図っていく。

３　児童の学力・学習状況等の課題

・学習に対する関心や意欲を高める。課題に取り組む際には、必要性を十分に感じられるようにする。
・国語・算数ともに、基礎的な内容を理解したり漢字が定着できるようにし、学年相応の力が身に付けられるようにする。
・効果的な言語活動を充実させ、各教科において文章や資料から必要な情報を読み取る力を高められるようにする。
・語彙や設問を理解する力を高め、記述式の問題にも取り組めるようしに、「書く力」を定着させる。

４　学校全体の授業改善の視点

①具体物や資料の掲示や活用、ICTの活用をして、「分かりやすい授業」を行う。
②基礎・基本の学習内容の定着に向け、語彙の獲得や学習用語の確認を意図的・計画的・継続的に行う。
③学年に応じた三文作文に取り組んだり、自分の考えを文章に書いたりするなど、書く活動を授業に取り入れ、書く力を伸ばす。
④意図的・計画的な学習指導の実施に向け、「１単位時間の流れやめあての明確化」「振り返り」を意識した授業づくりを行う。
⑤児童の主体的で深い学びを大切にした指導に向け、問題解決型学習や話し合い活動を取り入れた授業を行う。
⑥子供たちの実態を把握するとともに、自身の得意分野や知識、経験を生かして、子供たちが意欲的に取り組めるような「好奇心を大切にした授業」を行う。

【授業改善推進プランの活用法】

①「１　学校として目指す授業」を設定する。
　※学校経営方針との関連を確認すること。
②「１　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「２　児童
　の現状」にまとめる。
③「２　児童の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「３　児童の学
　力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「３　児童の学力・学習状況等の課題」を基に，「４　学校全体の授業改善の
　視点」を設定する。
⑤「４　学校全体の授業改善の視点」を基に、「５　各教科における授業改善の
　方策」を設定する。　→　教育指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、３学期以降の指導に生かす。
　評価　◎…実施した。　○…一部実施した。　△…未実施

５　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	②ひらがなやカタカナ、漢字の学習の中で、たくさんの語彙に触れさせる。③書く単元で、三文作文に取り組み、大まかな文、くわしい文、気持ちの文の書き方理解し、活用できるようにする。				①デジタル教科書をテレビ二写し、書き込みをしながら分かりやすい授業を行う。⑤問題が出た時にただ答えを確認するのではなく、なぜその答えが出たのか理由もきちんと理解できるようにする。	○			①観察時にタブレットを活用し、細かいところを見たり、興味をもって取り組んだりできるようにする。⑥生き物や植物など子供たちの実体験を聞いたり興味を膨らましたりしながら学習につなげていく。		①歌詞に出てくる具体物や映像による資料を提示する。 デジタル教科書をテレビ画面に写し動作や音源などを視覚的にもわかりやすくする。		②用具の扱い方や名前について、使用時に毎回写真を見ながら確認する。 ⑥身近な自然や作品などから、自分の思いを広げたりする事ができるように制作前にイメージするものを交流させたり、制作中にも交流の時間を設定する。				①授業への意欲づけや正しい動きの理解などにICTを活用する。 ⑥児童が多くの人と関わり、仲良く、安全に運動できるルールの工夫を行うことで、児童が意欲的に取り組めるようにする。				④道徳的価値について、教材で考え・共有して、終わりにするだけではなく、自分の生活に戻って、価値について広く考えられるようにする。 ⑤それぞれが考えた、自分のよりよく成長するための考えを学級全体で共有できる時間を十分に確保する。	
中学年	②漢字の学習では、テストまでのルーティンをつくる事で意図的・計画的に学習を行い、児童に見通しをもたせる。 ③三文作文を振り返りの中で日常的に活用することで文の構成の定着を図る。		③体験したことを自分の言葉で、三文作文の３つの項目で分かったことや、気付いたことを書かせまとめる。 ⑥学習進度と連携させ体験的学習を取り入れる。主体的な態度（好奇心）を育み、考えを深められるようにしていく。		①具体物、資格資料・ICTを活用し、児童が見て、動かして、考えて、伝え合う算数の授業ができるようにする。 ④「１単位時間の流れやめあての明確化」「振り返り」を意識した授業づくりを行う。		①観察時にタブレットを活用することで、視覚的に理解し細かく見る目を養う ⑥学校や地域の豊かな自然・地域教材を問題に活かすことで、児童の主体的な姿を引き出し、問題への考えを広げ、深められるようにする。				①歌詞に出てくる具体物や映像による資料を提示する。 音符やリズム、リコーダーの運指等の学習にICTを活用する。 デジタル教科書を必要に応じて活用する。		①具体的な作品例やワークシートを活用して自分の思いが表現できるように設定する。 ②用具の扱い方や名前について、使用時に毎回写真を見ながら確認する。				⑤友達と関わり合いで技能ポイントや作戦などを伝え合い、互いに高め合うことができるよう工夫する。 ⑥スモールステップの場や易しいルールの設定など、児童の意欲が高まるよう工夫する。				⑤自分の考えをペアや小グループで伝え合い、全体で共有し多様な考え方を認められるようにしたり、教材の道徳的価値を自分自身の生活場面に落とし込んで考えることができるようにしたりする。	
高学年	③三文作文やジャーナルの活動を通して、自分の思いを書き出すことを習慣化させる。また、学年相応の語彙力を身に着けさせるために、読書活動に取り組む。		⑤⑥学習の導入では、知的好奇心を持てる発問を心がけることで、主体的な学びや学習の意欲が継続させる。資料から読み取った自分の考えをノートやタブレットに記録し、振り返ることで学習の積み重ねを意識させていく。		①児童が思考の過程を視覚的、体験的に理解し自ら表現、説明できるように ICT、資料を活用する。		⑥児童がこれまでに学んだ知識や日常生活の現象を踏まえた問題提起を行い、意欲を高める。				①歌詞に出てくる具体物や映像による資料を提示する。 旋律づくりなどにデジタル教科書を活用する。		②用具の扱い方や名前について、使用時に毎回写真を見ながら確認する。 ⑤低学年、中学年で学んできた技術を表現したいことに合わせて選択し、活用できるような題材を設定する。		①⑤自分事として捉え、実生活に還元できるよう、身の周りの事象を学習で取り上げる。よりよい生活を送るための話し合いを通して、主体的な学びを深めていく。また、ICTを活用し、音声と視覚からの情報で学習の理解も深めさせる。		①動画や技能ポイントが分かる学習資料を準備し、自分の課題に合った運動ができるようにする。 ⑥実態に合わせてスモールステップの場を設定し、すすんで運動しようとする意欲をもたせる。		①④２年間を見通した継続的な指導を行う。１単位時間の流れを統一することで、児童が安心して学習に取り組める環境を整える。 ICT機器を活用することで、音声と視覚からの情報で、より学習の理解を深めさせる。		⑤自分事として捉えた際に考えが深まるよう、日常的にある問題を道徳教育として捉える機会を多くつくる。国語や社会、学級活動と関連させ、教科横断的に指導する。	